

主任者 コーナー

平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 53 回放射線管理研修会) のご案内



放射線安全取扱部会
部会長 宮越順二

この4月から日本アイソトープ協会が公益法人化され、協会の制度改革に伴い、部会の名称を新たにスタートすることとなりました。今年、放射線安全取扱部会の名称として、初めての年次大会です。以下に、年次大会の概要についてご紹介いたします。

平成24年度放射線安全取扱部会年次大会(第53回放射線管理研修会)は、11月8日(木)、9日(金)の両日にわたって、松山市の松山市総合コミュニティセンターにて開催いたします。大会のメインテーマは、中島寛・実行委員長のお知らせ(本号)にもありますように、坂村真民の「念ずれば花ひらく」です。地震や津波で被災した東日本の地域並びに原子力事故に被災した福島県の復興を願う強い気持ちとともに、部会としては、放射線の専門家としての役割で貢献することが、このテーマに込められていると思います。

初日には、特別講演(一般公開)として、西澤孝一氏(坂村真民記念館館長)から、坂村真民の人生と詩の魅力が紹介されます。また、昨年の山形大会に引き続き、福島第一原子力発電所事故関連のシンポジウムを行います。特に、除染、がれき処理、医療など、事故からの復旧・復興に焦点を絞ったシンポジウムです。さらに、特別講演として、文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室長 南山力生氏か

ら、放射線安全行政の現状が紹介されます。

昨年の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故以来、我が国の“放射線”に対する意識が極めて高くなっています。2日目には、まず、日本アイソトープ協会の有馬朗人会長から、我が国の放射線教育の必要性について、特別講演があります。さらに、学校の子供たちや一般の方々への放射線教育について、焦点を絞ったシンポジウムを行います。演者からは、これまでの経験を紹介していただき、部会として貢献できることをパネルディスカッションします。また、最近、目覚ましい発展を遂げている分子イメージングを取り上げ、放射線管理に関連したシンポジウムも行います。

初日の相談コーナーをはじめ、2日間にわたって、機器展示や書籍コーナーも例年通り設けられます。新しく主任者になられた方々をはじめ、日ごろの疑問を解消する場として、ご活用いただければ幸いです。

放射線に関する公共の安全・安心の確保に寄与することが、部会の目的の1つでもあり、この年次大会が、少なからずその役割を演ずることができる機会と確信いたしております。末筆ながら、ここに年次大会のご案内とともに、多くの方々から松山の地へご参集されることを心からお願い申し上げます。

(京都大学生存圏研究所)